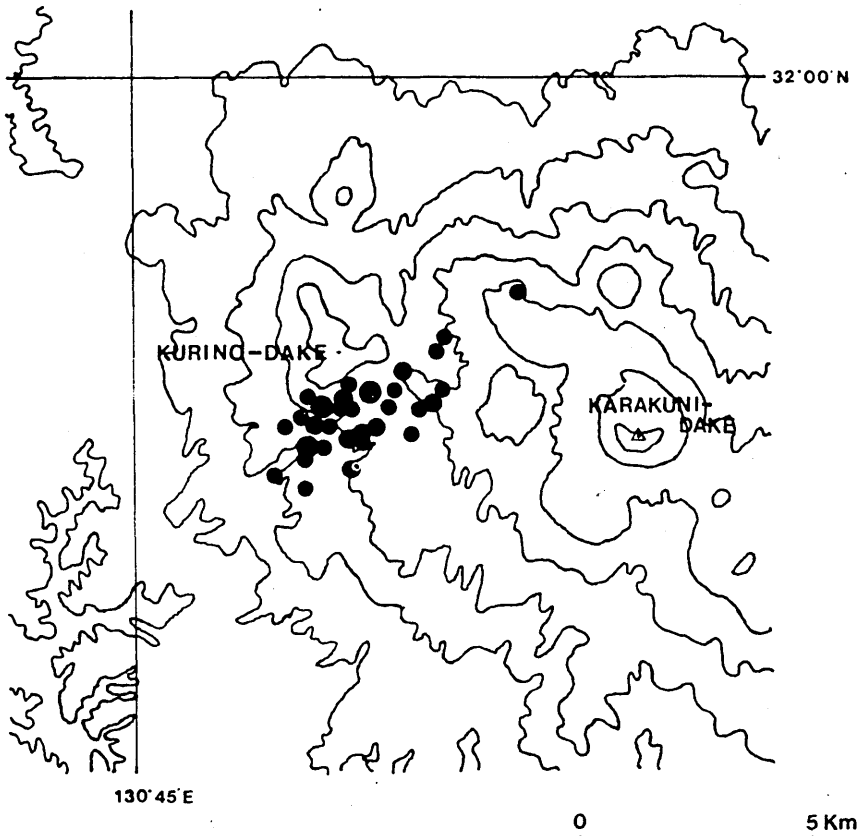


霧島火山栗野岳南麓の群発地震*

東京大学地震研究所

1982年8月17日23時56分より同8月18日01時21分間に微小地震の群発があった。東大霧島火山観測所の観測網に観測された個数は83個 ($M_F-p \geq -0.6$), 最大 $M_F-p = 3.4$, Gutenberg-Richterの



● $M < 2$, ● $2 \leq M < 3$, ● $3 \leq M < 4$

第1図 栗野岳周辺の震央分布
期間：1982年8月17日－18日
深さ：海拔0～10kmのみ。

Fig.1 Epicentral distribution in the vicinity of Mt. Kurino-dake in Kirishima Volcanoes.
Period : From August 17, 1982 to August 18, 1982.
Focal depth : Every event has been observed at between 0 ~ 10 km in altitude.

* Received Dec. 16, 1982

係数 $b = 1.50$ であった。震源の求められた 34 個は、第 1 図に示されるように、栗野岳の南麓、深さ 3 ～ 6 km に分布する。

霧島山の南西部では広い範囲に渡って散発的に地震が観測されているが、今回の震源分布域は特に発生頻度の低い地域である。

栗野岳北麓には 1915 年栗野地震群（今村，1920）が発生している。推定震源の信頼性は低いが、有感地震 70 個の発生状況は、従来どおり加久藤カルデラの群発地震活動として扱うべきと思わせるものであり、今回の山体の微小地震活動とは別種のものとする。

参 考 文 献

- 今村明恒（1920）：九州地震帯，震災予防調査会報告 92 号，pp. 1 - 94.
- 宮崎 努・山口 勝・増谷文雄・寺尾弘子（1976）：“1975 ～ 1976 年”霧島火山北方地域における群発地震活動，地震研究所彙報，51，pp. 115 - 149.